

滿洲國案内

路線	一等	二等	三等
哈爾濱より(金留)			
安達	二、五〇	二、〇〇	一、〇〇
昂々溪	五、〇〇	三、五〇	二、〇〇
海拉爾	五、五〇	四、〇〇	二、〇〇
滿洲里	六、〇〇	四、五〇	二、〇〇
一面坡	二、五〇	二、〇〇	一、〇〇
横道河子	四、〇〇	二、五〇	一、〇〇
海林	四、〇〇	三、五〇	二、〇〇
綏芬河	四、〇〇	三、〇〇	二、〇〇
浦鹽	六、〇〇	四、五〇	二、〇〇
昂々溪滿洲里間	五、〇〇	三、五〇	二、〇〇

◇……長春、哈爾濱間寢臺料金(金留)  
 一等六・〇〇、二等四・〇〇、三等一・〇〇、  
 小兒賃金 五歳未満は一人無賃、十歳迄は一等は二等額、二等は三等額、三等は大人の半額。  
 ◇……滿洲里、哈爾濱、ボグラニーチナヤ間寢臺料金(金留)  
 一等六・〇〇、二等四・五〇、三等二・〇〇、  
 區間寢臺料は前記萬國寢臺車座席料参照。

四、北寧鐵道

五、大阪商船會社

- 一、直通列車は電燈を供へ冬期は蒸汽爐を、夏期は電氣扇扇を備附てある
- 一、小兒賃銀、四才未満無賃、十二才未満半額
- 一、列車内食事料
  - 朝食五十仙、 一弗半
  - 朝 上等一弗、 一弗二十五仙、夕 一弗半
- 一、手荷物無賃制限
  - 一等旅客一名に付 八十斤(一三四斤)
  - 二等旅客一名に付 六十斤(一〇〇斤)
  - 三等旅客一名に付 四十斤(六十七斤)
- 一、無賃制限量を超過する手荷物重量に對しては二十斤(三十三斤半)又は其端數毎に一斤につき二厘(一仙の五分の一)
- 一、旅客一名の手荷物超過重量三百斤を超過するときは貨物列車にて運送し料金を要する
- 一、高價荷物には保險を附するを要する其料金は百弗に付二十五仙、但百五十斤毎に最低料金一弗
- 辨償金額はトランク、鞆又は箱百弗、寢具一束毎に三十弗、細のバスケット十弗

滿洲國旅行案内

- ◇……運賃  
 邦貨圓を以て本位とす。  
 小兒運賃は十二才未満は半額、四才未満は一人に限り無賃、二人以上となる時は他は四分の一宛とす。
- ◇……手荷物  
 手荷物は衣類、手廻品等普通旅行に必要なもの、みとし下記のもの手荷物と認めず。  
 一、家具、商品、酒類  
 二、寢包、襪包其他包装及荷造の不潔粗大なるもの  
 三、生魚並に悪臭を發し或は液汁を滲出するもの若くは腐敗、毀損し易きもの  
 四、地金銀貨幣、寶玉類、有價證券書類、美術品等の如き貴重品(但旅行に必要程度の貨幣、裝身具等は此限にあらず)  
 五、刀劍、銃砲、火藥、爆發物又は燃焼し易きもの其他人命、財産に危害損傷を及ぼす虞あるもの  
 六、出入國の法律により携帯を禁ぜられたるもの
- 手荷物無賃制限左の如し
  - 一等 百五十斤又 百二十斤又 六十斤又
  - 二等 百二十斤又 十五斤又 十斤又
  - 三等 六十斤又 十斤又

四、乗車船賃金及所要時間

滿洲旅行には往復券又は周遊券を利用するのが、賃金も割引され、且つ便利である。

**滿洲往復券** 朝鮮經由の場合鐵道省線、朝鮮鐵道線、南滿洲鐵道線共賃金は汽車汽船共二割引、通用期間二ヶ月である。大阪商船大連航路經由の場合汽車二割引、汽船一割引である。但しこの大連經由の往復券は鐵道省線、滿鐵線主要驛間に限られてゐる。

**日鮮滿周遊券** 片道關釜連絡船、片道大連航路を經山し、朝鮮滿洲を周遊するものである。賃金は各鐵道並關釜連絡船二割引、大阪商船一割引、通用期間二ヶ月である。發賣驛は東京又は新橋、横濱、名古屋、京都、大阪、神戸、姫路、岡山、廣島、下關又は門司、博多、長崎、熊本、鹿兒島で、經路は初發驛—神戸又は門司—大連—奉天—安東—京城—釜山—下關—發驛歸著、又はその反對經路である。

**日滿往復券** 鐵道省線主要驛から中東鐵道線の雙

内案國洲滿

城堡、哈爾濱、安達、齊々哈爾、海拉爾及滿州里の相互間に發賣する往復切符で、中東鐵道を除く各汽車貨二割引、浦蘆斯德及大連航路貨一割引、ウスリ線三等に限り二割引、通用期間六十日間である。  
**日滿周遊券** 日鮮滿各地及蘇國沿海洲を周遊する切符で、通用期間九十日間、割引率は前項往復券と同一である。  
**學生及教職員** 鐵道省線二割引、朝鮮鐵道線四割引、滿鐵線五割引、各汽船二割引。但し學生は三等に限り、教職員は三等又は二等に限る。  
**團體旅行** 一、十人以上から團體の取扱をする。二十人以上になると人數に應じて日鮮滿の鐵道は團體監督者を左の割合で無賃待遇する。二十人以上五十人迄は内一人、五十人以上は五十人毎に内一人。二、團體の經路及取扱區域は前項の單獨旅行の場合と同一で、鮮滿の往復又は周遊に限る(片道旅行の團體は各鐵道各別の割引規程に依り取扱ふ)。但し本邦から發し本邦に歸着するを條件とし必ずしも同一驛に發着を要せず。三、旅行先で支線に新に乘車する場合は原券と同一の割引が受けられる。四、學生

及教職員團體は一般團體より高率なる所定割引が受けられる。五、浦蘆經由の團體は外國旅行免狀を受けてからでない切符を求められない。六、各鐵道及汽船の割引率は一割乃至六割引である。七、日滿連絡學生團體に限り省線十人以上五割引、學生も二等乘車を認む。  
**普通旅客運賃** 本邦から滿洲に至るには現在に於ては大體下關、釜山、安東經由と、門司大連間航路經由との二經路がある。普通旅客運賃は鐵道省線、朝鮮鐵道線、滿鐵線、大阪商船航路等の各別の賃金を合算したものである。  
 主要區間の賃金を示せば左の通りである。

下關、釜山間	一三	二二	三三
釜山、安東間	一三	二二	三三
安東、奉天間	一三	二二	三三
安東、大連間	一三	二二	三三

内案行旅國洲滿

(線省道鐵)

行急通普	行急別特			別區	新程
	一	二	三		
一滿	二、〇〇	一、三〇	六五	一、三〇	四〇〇
二	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	二、五〇	八〇〇
三	三、七五	二、五〇	一、二五	四、〇〇	八〇一

急行料金

安東、長春間	一三	二二	三三
大連、長春間	一三	二二	三三
門司、大連間	一三	二二	三三
神戶、大連間	一三	二二	三三

(線道鐵洲滿南)

一三	二二	三三
一四	二二	三三
一	二	三

(線道鐵鮮朝)

一	二	三
二	三	四
三	四	五

寢臺料金

鐵道省線  
 一等 上段五、〇〇 二等 上段三、〇〇 三等 上段一、五〇  
 下段七、〇〇 下段四、五〇 下段二、二五

滿洲國案内

朝鮮鐵道線

一等〔上段五、〇〇二等〔上段三、〇〇三等〔上段一、五〇〇  
 下段七、〇〇下段四、五〇下段一、八〇〇

南滿洲鐵道線  
 一等〔上段五、〇〇二等〔上段三、〇〇三等〔上段一、五〇〇  
 下段七、〇〇下段四、五〇下段一、八〇〇

日滿旅行所要時間

内地から滿洲に直通旅行をする場合はなるべく接続のよい直通列車又は急行列車を利用すればよい。下關釜山間は晝夜二回連絡船が出航する。

下關釜山間晝便 晝便は午前十時三十分發、同日午後六時三十分著、釜山發午後九時二十分の奉天行列車(普通列車)に接続し、翌々日午前六時二十分に奉天に着く。更に長春へは奉天發午前六時五十五分發、長春着同日午後一時、大連へは奉天發午前七時十五

分、大連着同日午後四時五十分

下關釜山間夜便 夜便は午後十時三十分發、翌日午前八時着、釜山發午前九時十分の奉天行列車(急行列車)に接続し、翌日午後一時に奉天に着く。更に長春へは奉天發午後三時三十六分、長春着同日午後八時三十分、大連へは奉天發午後一時二十七分、大連着同日午後八時。

復路は奉天發午後三時二十五分列車に乗れば、翌々日午前七時に下關に着き、奉天發午後十時五十五分列車に乗れば翌々日午後六時三十分下關に着く。

神戸大連間航路 現在大阪商船會社の汽船が三日目毎に双方から出航してゐる。神戸發正午、翌日早朝門司着、同日午後一時發、三日目の早朝大連着。大連發午前十時、門司着三日目早朝、同日正午發、翌日早朝神戸に着く。

—了—

昭和七年三月二十五日  
 昭和七年四月十日

印刷發行



最新滿洲國案内

定價金六十錢

編者 東亞文化協會

發行人 印刷人 石田靖一

印刷所 東京市牛込區新小川町一ノ二 葉社

發行所 東京・中野・東郷二一 鐵道研究社

振替東京二六五二五番  
 電話中野二二八九番



373  
616

終